



伊藤 宣広 准教授

【いとう のぶひろ】

1977年生まれ。京都大学博士(経済学)。担当科目は経済学方法論、学問研究入門。専門はケンブリッジ学派の経済学。趣味は音楽鑑賞。好きな音楽家はベートーヴェンとワーグナー。

- 学問研究入門
- 経済学方法論 I・II

過去の経済学説・経済思想から何が学べるか

伊藤ゼミでは主に、過去から現在に至る様々な経済学説、経済思想を勉強しています。経済学部でのゼミの中ではやや歴史寄りの内容ですが、合宿では時事的な経済問題も扱います。なぜ不況が起こるのか、不況に対する処方箋としてどのようなものが考えられるか、といった問題を議論する上で、過去から学ぶべきことはたくさんあります。

経済学部の教育システムは基本的に講義とゼミの二本立てですが、ゼミでは「ゼミでしかできないことをやる」という点に重点を置いています。知識を得るだけであれば、講義でも間に合いますし、そもそも自分で本を読んで勉強すれば済むことです。

ゼミの基本スタイルはテキストを決めて輪読・討論するという古典的なものです。それが上手く機能するためには、参加者にもそれなりの努力が求められます。発表された内容をもとに討論するといっても、ある程度の予備知識がないと議論にならないからです。ゼミの進行にあたっては、発表者にばかりスポットライトが当たりがちですが、むしろフロアで発表を聴く側の態度もそれに劣らず重要です。ただ教室にやってきて話をきいて帰って行くだけではあまり得るものはないでしょう。能動的に参加してこそゼミですので、どの参加者も最低一日一度は何か発言することをルールにしています。良い質問が出れば議論は盛り上がりますが、的確な質問をする、というのが実はなかなか難しいのです。しかしこれを意識的に試みるだけでも確実に思考力は養われます。

ゼミは、学生の皆さんが自分の頭でものを考える良い機会であり、また、人前で話をする練習の場としても重要です。大学は社会人になるための予備校ではありませんし、大学の教育カリキュラムは就職活動に役立つことを意図して設計されているわけでもありませんが、ゼミ形式で議論の訓練を重ねることは、結果的に、今後の人生においても役に立つことが多いのではないかと思います。

私自身、まだまだ教師として未熟ですので、ゼミ生とともに成長できるように、思考錯誤中の毎日です。

私達のゼミは指定教材の内容を、レジュメを作成してグループで発表するという形式の輪読学習を行っています。経済学の知識の吸収は勿論ですが、相手に分かり易く簡潔に発表する能力と、発表者に対して良いコメントが出来る能力を磨く事に重点を置いています。将来役立つ能力を身に付けられる様、しっかり取り組んでいます。

伊藤ゼミ2期生 宝木 祐樹

ゼミ生のひとこと

